

振り返りシート集計結果

奈良市子ども会議の各回で子どもたちにその日を振り返るアンケート(振り返りシート)を記入してもらい、子ども会議についての意見を聞きました。その集計結果は次のとおりです。

回答者数	第1回	24名
	第2回	18名
	第3回	20名
	第4回	17名
	第5回	17名

(問1) 楽しかったですか？

選択肢	第1回		第2回		第3回		第4回		第5回	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
とてもそう思う	16	67%	17	94%	18	90%	15	88%	16	94%
そう思う	7	29%	1	6%	2	10%	2	12%	1	6%
そうでもない	1	4%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
そう思わない	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
全く思わない	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
計	24	100%	18	100%	20	100%	17	100%	17	100%

(問2) わかりやすかったですか？

選択肢	第1回		第2回		第3回		第4回		第5回	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
とてもそう思う	13	54%	15	83%	16	80%	14	82%	16	94%
そう思う	11	46%	3	17%	4	20%	3	18%	1	6%
そうでもない	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
そう思わない	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
全く思わない	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
計	24	100%	18	100%	20	100%	17	100%	17	100%

(問3) 話しやすかったですか？

選択肢	第1回		第2回		第3回		第4回		第5回	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
とてもそう思う	15	63%	12	67%	14	70%	15	88%	14	82%
そう思う	8	33%	5	28%	6	30%	2	12%	3	18%
そうでもない	1	4%	1	6%	0	0%	0	0%	0	0%
そう思わない	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
全く思わない	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
計	24	100%	18	100%	20	100%	17	100%	17	100%

NO.1 奈良市子ども会議の開催(アンケート)

(問4) 今日の子ども会議に参加して、感じたこと、気づいたこと、考えたことなど…なんでも書いてください！

① 第1回 (※一部抜粋)

- ・みんなのためになるなら、すごくがんばるぞと思った。たのしかった。
- ・もっと自分の意見など考えたことを発表する力をつけないといけないと思いました。
- ・大人だけで考えない。子どもの意見も尊重されていてびっくりしました。
- ・初めてで不安だったけど、遊びについて考えることはあまりないので新鮮で楽しかったです！
- ・人と話して決まったり、まとめたりしたことが楽しかった。
- ・なかなか、ちがう学校の人と話す機会はないから、いい「経験」になったと思う。
- ・自分より年齢の低い子たちでも自分より頭が良かったり、クリエイティビティがあつてすごかったです！
- ・みんながあそべる楽しい公園を実現してみたい。
- ・みんなと初めて会ったり、話し合ったけど、楽しくできたからよかった。
- ・今まで考えなかった部分を考えて、気づけた部分がたくさんありました。
他の人の意見をきいて、自分にない考えを知ることができて良かったです。

② 第2回 (※一部抜粋)

- ・トランポリンみたいなものが楽しかった。
- ・小さい子の遊び場で遊ばないので、今日遊んで楽しかったし、遊んでるんだなあというのがわかってよかった。
- ・今小学生だけど、幼稚園児にもどった気分になれました。いつになっても楽しめる工夫があつてすごいです。
- ・大人でも子どもでも楽しめるっていいなと思った。
- ・年齢など関係なく遊べて、見るだけでもワクワクしてとても楽しかったです。
- ・ここはやわらかいものが多くて安全と思った。
- ・久しぶりにリラックスして、体を動かすことができた。安全面への配慮もあつてよかった。
未就学児の気持ちになれた気がした。
- ・楽しい遊びの中にも危険があるんだなと改めて気づくことができました。
- ・新しくできた所に来る機会がなかったので、来てよかったです。
人見知りなので、昔「かして」といえなかった遊具で遊べて楽しかったです。
これから企画を作る上で大変参考になりました。

③ 第3回(※一部抜粋)

- ・自分たちの遊び場を考えて、これが本当にあつたらいい。
- ・自分たちがしている遊びも参考になる。
- ・本格的に企画を考えるのが楽しかった！！
- ・友だちといっぱい意見を出せて楽しかった
- ・遊び場が現実のものになっていくような感じで楽しかった。いろいろと考えることができてよかったと思う。
- ・就学児の遊びについて、いろんな角度からみることができて、新たな発見ができました。
いろんな気づきがあつて、考えることができました。
- ・本格的に企画作りがスタートして、みんなの想像力におどろきました！きっといい企画になると思います。
キャッチコピー作りも頑張りたいです！
- ・チームの人と話すことで、いろいろな案を出すことができた！

NO.1 奈良市子ども会議の開催(アンケート)

④第4回(※一部抜粋)

- ・最初は何も書いていない紙に、今日はいたり作ったりはったりしてたのしかった。
- ・遊びの企画をすることが少し難しいけど、とてもたのしいです。
- ・迷路づくりが楽しかった。
- ・前に考えた意見以外のものを取り入れたりしてもっと考えたい。
- ・小1～高3まで、みんなが楽しめる遊びを考えることは、難しいなと感じました。
そのぶん、何かできたとき、すごく嬉しかったです。
- ・理想が形になっていくのが見えてとても楽しかったです。

⑤第5回(※一部抜粋)

- ・みんなと話し合えてよかった。たのしかった(とても)
- ・伝える力が少しずつついてきてとてもよかったです。
- ・いろいろな意見や考えを言えてうれしかった。
- ・ほかの班の意見をきいて、自分の班にはない、わくわく感がありました。
- ・子どもたち全員が楽しく遊べる場所について、考えることができました！！
- ・次回が最後と思うと泣けてきます…最後まで全力で行きます！
- ・発表がんばりまーす！



アンケート集計結果

全5回の子ども会議終了後には奈良市子ども会議全体を振り返ってのアンケートを子どもたちに記入してもらいました。その集計結果は次のとおりです。

回答者数 18名

(問1) 奈良市子ども会議のことを何で知りましたか。(1名からの複数回答あり)

選択肢	人数	%
学校での案内	10	53%
友達や保護者からの紹介	3	16%
しみんだより	2	11%
奈良市のホームページ	1	5%
奈良市公式SNS	0	0%
チラシ	0	0%
口コミ	0	0%
その他	3	16%
計	19	100%

(その他)

・兄におしえてもらった

(問2) 奈良市子ども会議全体を通して、満足でしたか。

選択肢	人数	%
満足	15	83%
やや満足	3	17%
普通	0	0%
やや不満	0	0%
不満	0	0%
計	18	100%

(その理由) ※一部抜粋

【満足】

- ・緊張したけど友だちもできてたのしかった。
- ・自分の意見をみんなに言えたから。
- ・いろんな年齢の人たちと、一緒に子どもの遊び場を考える上で、使ったことのなかった頭を使ってたくさん学べました。良い経験になりました。

【やや満足】

- ・コミュニケーション力が少しずつついてきたからです。
- ・みんなで話し合ってたのしかった。

NO.1 奈良市子ども会議の開催(アンケート)

(問3) 奈良市子ども会議全体を通して自分の意見を言うことができましたか。

選択肢	人数	%
十分できた	13	72%
できた	4	22%
どちらともいえない	1	6%
あまりできなかった	0	0%
まったくできなかった	0	0%
計	18	100%

(問4) 子ども会議に来年もまた参加したいですか。

選択肢	人数	%
とても参加したい	9	50%
参加したい	7	39%
どちらともいえない	1	6%
あまり参加したくない	1	6%
参加したくない	0	0%
計	18	100%

(問5) また奈良市子ども会議に参加するとしたら、どんなテーマで話し合いたいですか。 ※一部抜粋

- ・ワクワク楽しくハッピーな子どもの遊び場作成！！
- ・学校の新しい遊具について
- ・理想の飲食店
- ・子ども同士が仲良くなっていくためには
- ・スポーツについて
- ・学校の設備について



NO.1 奈良市子ども会議の開催(アンケート)

(問6) 奈良市は子どもにやさしいまちだと思いますか。

選択肢	人数	%
とてもそう思う	8	44%
そう思う	9	50%
あまり思わない	1	6%
まったく思わない	0	0%
わからない	0	0%
計	18	100%

(その理由) ※一部抜粋

【とてもそう思う】

- ・子どものことを考えてテーマを作ってくれたから。
- ・子ども会議をやっているから。
- ・ちょうどいい町だから。

【そう思う】

- ・子ども会議などを開いているから。
- ・子どもの意見を尊重して、遊び場を作成するなどの取組がよい。
- ・基本的にはやさしいけど、犯罪なども起きるから。

【あまり思わない】

- ・まだまだ自分たちの思っている遊びのできない所が多いから。

(問7) 奈良市子ども会議に参加して、良かったところ、悪かったところ、変えてほしいところなど、自由に感想や意見を書いてください。(開催時期、回数、内容など) ※一部抜粋

- ・すごく楽しい一日になる日が子ども会議だから来年も行きたいです。
- ・初めて会った人とたくさん話せたから。
- ・みんなが自分の意見を言っていて、意見を言うのが苦手な子もかけながら支えてくれたところ！！
- ・冬に開催してほしい。
- ・もうちょっと回数がほしい。
- ・いろんな年の子とおはなしできて価値観は広がって楽しかったです。

令和4年度

奈良市地域教育推進事業に関するアンケート調査

(報告書)

令和5年5月

奈良市教育委員会事務局 地域教育課

<調査内容>

1. アンケートの趣旨

本市では、平成23年度より「地域で決める学校予算事業」と「放課後子ども教室推進事業」を奈良市地域教育推進事業に位置付け事業を展開している。

これまでの事業に対する成果と課題を把握し、次年度の事業に生かすことを目的として、各地域教育協議会及び各学校園に対してアンケートを実施する。

2. アンケートの対象

中学校区地域教育協議会会長(21協議会)

総合コーディネーター(21協議会)

代表コーディネーター(98委員会)

各学校園(管理職及び地域連携担当教員)(98校園)

3. アンケートの実施期間

令和5年1月30日～令和5年3月3日

4. 調査内容

- ①現在の職・立場について
- ②活動する中で感じた効果について
- ③紹介したい取組や自慢の取組、新たな取組等について
- ④他団体や企業等と連携して行った活動等について
- ⑤活動する中で感じた課題について
- ⑥課題を解決するために必要なことについて
- ⑦管理職以外の教職員の事業の認知度について(学校園のみ)
- ⑧やりがいや満足度について(地域のみ)
- ⑨管理職以外の教職員との関わりについて(地域のみ)
- ⑩今後特に必要と感じる地域教育課の支援について
- ⑪今後取り組みたい活動やアイデア等について
- ⑫その他事業に関するご意見

5. アンケートの回収

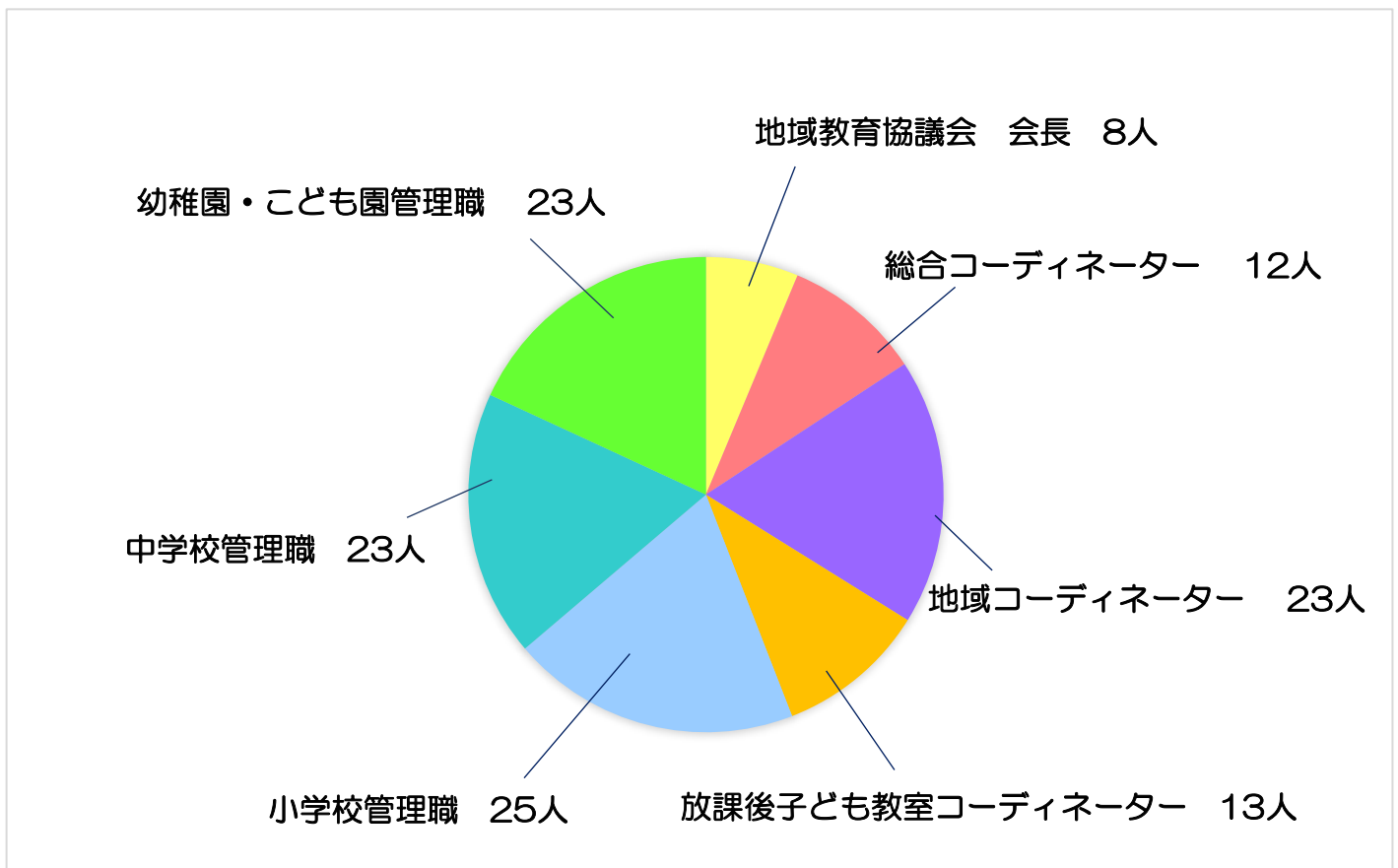
127件の回答

令和4年度 奈良市地域教育推進事業に関する アンケート調査結果

① 現在の職・立場について

【回答数】127件(地域56件・学校園71件)

昨年度 142件(地域76件・学校園66件)



② 活動する中で感じた効果について (複数回答)

地域と学校園の双方とも「子どもたちの体験や経験の場が増えた」という回答が最も多く、子どもたちに対して効果を感じているという回答が上位を占めていた。また、地域は「地域住民のつながりが生まれた」、学校は「家庭や地域の学校に対する理解が深まった」という回答が多かったことから、事業を通して学校を核とした地域づくりが進められていることが見受けられた。

項目	地域(回答者数56人)		学校(回答者数71人)	
	回答数	割合	回答数	割合
子どもたちの体験や経験の場が増えた	45	80%	65	92%
子どもたちの規範意識、社会性の向上につながった	28	50%	31	44%
子どもたちのコミュニケーション能力が向上した	17	30%	31	44%
子どもたちの学習意欲が向上した	16	29%	28	39%
子どもたちの地域に対する理解や愛着につながった	21	38%	49	69%
教職員の負担が軽減された	8	14%	18	25%
教職員が地域連携に対する必要性を感じるようになった	20	36%	30	42%
教育環境や教育条件の改善につながった	6	11%	22	31%
家庭や地域の学校に対する理解が深まった	17	30%	37	52%
地域や家庭による学校支援活動が活発になった	12	21%	27	38%
地域住民のつながりが生まれた	21	38%	29	41%
その他(自由記述)	3	5%	1	1%
	214		368	

回答数が上位3位までの項目

順位	地域			学校		
	項目	回答数	割合	項目	回答数	割合
1	子どもたちの体験や経験の場が増えた	45	80%	子どもたちの体験や経験の場が増えた	65	92%
2	子どもたちの規範意識、社会性の向上につながった	28	50%	子どもたちの地域に対する理解や愛着につながった	49	69%
3	子どもたちの地域に対する理解や愛着につながった	21	38%	家庭や地域の学校に対する理解が深まった	37	52%
	地域住民のつながりが生まれた	21	38%			

【その他(自由記述)】 ※同じ内容の回答はまとめさせていただいております。

〈地域〉

・地域あつての活動ができましたと思います。

学校だけでは行えない行事を行うことで、先生や生徒達にとっても豊かな活動にはなったと思います。

・地域の方と一緒にものを作ったり、体験したりして、普段接しない大人とかかわることでコミュニケーションの仕方や作品が完成したことでの達成感を感じていることがみられたから。

地域の方々当日のボランティアをしてもらうことで、地域の人通しのつながりにもなっていたから。

〈学校〉

・今年度から、保育園の玄関に地域の方の写真を貼り、地域の方をより身近に感じられるようにしている。

地域の方が、来てくださり、季節の行事を楽しむことで、一人じゃないんだよという気持ちや、周りにいつも笑いかけてくれる大人の人がいるということもすごく子どもたちにとって心強いことだと感じている。

③ 紹介したい取組や自慢の取組、新たな取組等について（自由記述）

※同じ活動の回答はまとめさせていただいております。

【学習支援】

- ・学習支援として数学と英語で習熟度別授業を行うことができた。
- ・「みんなの学習クラブ」を活用することでタブレット端末を活かした学習活動支援事業の充実につながった。また、年2回の漢字検定を地域も参加して実施した。
- ・主に図工と家庭科のサポートで、図工ではカッターナイフ・彫刻刀・のこぎり・糸のこ、家庭科ではミシン・調理実習の授業の安全見守りをおこなった。

【図書ボラ】

- ・ビブリオバトルの開催。
- ・地域の図書ボランティアによる図書室整備事業など

【キャリア教育】

- ・中学校で実施のキャリア教育(2年「未来地図の描き方発見プログラム」、3年「社会で自分を活かすための自己理解(面接体験)」)

【郷土学習】

- ・世界遺産学習を地域の方と共に行っていること。
- ・平城東中学校区全体活動では、2022年11月の「歴史ウォーク」に120名、2023年の「わくわくフェスティバル in 奈高」に1000名の参加を頂いた。
- ・郷土学習「ふるさと発見ウォーク(3)」
- ・校区にある“ならまち”を、地域の方に交通安全指導や案内をしていただきながら“ならまちたんけん”を行い、自分たちの住んでいる町を知り、関心を深めるきっかけになった。

【体験事業】

- ・蜜蝋体験、しめ縄づくり、大とんど
- ・コロナ禍でできなかった雅楽鑑賞が行えた。
- ・コーディネーターの紹介により、多様な方がたの講演会を開くことができ、人の生き方も多様なんだということを伝えられた。
- ・「生徒たちに本物との出会いを！」をテーマに開催したオーケストラ公演会
- ・地域人材とのつながりを大切に、日本伝統文化との出会いを意図した「日本舞踊鑑賞・体験公演会」の開催
- ・地域の方が竹の伐採、稲わらの手配運搬をしてくださり、日本の伝統文化を子どもたちに教えてくれた。地域、保護者の方も多数参加できた。
- ・田植えや稲刈り体験と学び
- ・ケナフ体験・昔遊び
- ・赤膚焼体験学習(5年)
- ・大柳生太鼓踊りは、昨年度よりも練習回数を増やし、また、成果発表会に地域の方を少人数ではあるが呼び出して行うことができ前進であった。新たな試みとして、音楽の授業で地域の方をお招きして「民謡教室」を開催した。今後とも継続して行くことができれば幸いである。
- ・第三幼稚園から引き継いだ活動を中心に行ってきた。地域の講師を招聘して子どもたちが活動に参加することで、豊かな経験をし、心身ともに成長につながった。今年初の取組としては、味噌づくりを行った。一人一人がビニールに入った豆をつぶす作業に取り組み、地域の方にも手伝ってもらい、豆から味噌ができるという食育にもつながる活動を共有できたことが良かった。

- ・今年度は、「ヒツジ見学」「登美ヶ丘わいわいフェスタ 2022」「親子陶芸」等、新たな感動体験事業を通して、地域の方々と関わりのふれあいが増えた。
- ・地域のお茶の先生に来ていただいたので、年4回のお茶会をおこなっています。継続的にして頂く事で、礼儀や作法について知る機会でもあり、大切さも理解していているように思います。また、小学校でも同じくお茶会をおこなっておられるので、繋がっていると感じます。
- ・蚕を卵から育て、毎日世話をすることで愛着をもつことができた。繭になるには蚕の命をいただかなくてはならないことを知り、命に対して真剣に向き合い、尊いものであることを再確認しました。またコロナ終息への思いを込めて、蚕の力をかり繭になる時に出す絹糸を格子状になるよう土台をつくってマスクを作成しました。それをもって自分達の住んでいる町にある喜光寺に奉納することができました。
- ・新年を祝うお茶会では、地域の方の琴やフルートの生演奏を聴いたり、お茶の先生のお点前を拝見し、子ども達も自分でお茶を点ていただいたりして、日本の文化やお茶の心に分れる体験をした。
- ・陶芸教室、生花教室を行い、花器作りから生け花まで一連の工程を体験している。
- ・押し花体験は地域の方が色々な花を押し花にして、子どもたちにカードを作らせてもらった。こどもたちは工夫してオリジナルのカードを作っていた。
- ・凧づくり教室では本格的な凧づくりをして、風がなくてもよく上がる凧を作ることができたのがよかった。
- ・ポッチャ、むかし遊び、おもしろ実験

【栽培活動】

- ・自園の畑を、昨年度実際に耕してみて近隣のこども園は、ミミズが多く、自園にミミズがないことに気付き、畑の野菜にはミミズはいた方が育ちがいいため、近隣のこども園にアポを取りその園からミミズを沢山持ってきてくれた。そのおかげで、野菜が元気に育った。
- ・地域の方とのさつまいも栽培
- ・もち米づくり
- ・新たな取組として中学生の有志と大根を栽培し、保存食としてたくあん漬けを作った。

【防災・防犯】

- ・さわやかフェス 2022
- ・防災教育「富雄子ども防災チャレンジ」

【環境整備】

- ・花いっぱい運動
- ・アルミ缶回収活動
- ・6年生の校区ゴミ拾い
- ・園庭の遊び場の環境整備として、地域の方と一緒に芝生植えを行った。子ども達が地域の方と共に、土づくりから行い、一緒に芝を植えた。夏ぐらいにはしっかりと芝も根をはり、秋には虫取りや芝生の植えに寝転がってころころ転がって遊ぶなど、楽しむことができた。

【その他】

- ・地域の方と校区の小中学校の教員が合同で、参集とオンラインのハイブリッド形式での研修を行った。
- ・地域との熟議を通し、今年度から子ども参加型に変更し実施した、地域まつり「飛鳥フェスティバル」の再開
- ・音声館による大紙芝居、獣医師会による命の授業、助産師会による命の授業、リクシルによる家庭科出前授業
- ・地域の活動で、漢字検定を行った。
- ・「こども未来会議」という小中の児童生徒の代表者が地域の取組として希望することを持ち寄った会議をオンラインで行ったこと。

- ・校区の企業の協力を得てふれあい文化祭を開催したこと。
- ・当園は、令和4年9月18日に創立50周年を迎えた。50周年記念事業を「おめでとう 六条幼稚園」とし、奈良市観光大使の氷置 晋さんとイメージキャラクターのぴよつきーを迎え保護者と、園にゆかりの深い地域の方と一緒に記念コンサートを開催しみんなで六条幼稚園の50歳のお誕生日をお祝いした。コンサートの後は運動場で、子どもたちはドローンの操縦体験を大人たちは、セグウェイやキックボードの体験乗車を楽しんだ。
- ・伏見祭を実施した。オープニングでこども園のバルーンをお願いしとても盛り上がっていた。このサポーターとして、中学生や高校生、20人程度お手伝いに来ていただいた。
- ・学区ブランド産品(富より団子)の継続取組。
- ・わくわくフェスティバル in 奈高。中学校区内にあった平城高校との取組が奈良高校へ引き継がれた取組。コロナ感染状況により延期してきたが、今年度3年ぶりに活動再開することができた。異年齢の子どもたちが「スタッフ・お客さん」それぞれの立場で交流することができた。開催当日は多くの人々にぎわった。
- ・「ベルマーク備品獲得プレゼンテーション」(中学生)
- ・コロナで地域の祭りが中止になる中、「とみきた子どもまつり」を開催した。子どもたちが一から企画してお店を作り上げ、たくさんにお客さんに楽しんでもらえた。普段、学校生活にあまり順応できていないと思われる子どもたちも企画側で参加し、作り上げる喜びを感じていた。その後に学校生活においても態度の変化が見られ、成長を感じることができた。

④ 他団体や企業等と連携して行った活動等について (自由記述)

※団体で同じものは、まとめさせていただいています。

団体名	活動名
ダイヤモンドテニスクラブ	テニス体験
特定非営利活動法人グラミーゴ奈良三笠	ドッジボール教室
コメリ緑育成財団	環境整備・植栽整備
自治連合会・自主防犯防災会など	防災訓練・防災教育
奈良市北消防署	防災教育
村田製作所 近畿日本鉄道 シャープ特選工業 ぷろぼの3R マテリアルセンター 奈良の鹿愛護会 サン薬局 奈良信用金庫 他	キャリア教育
大学生派遣(奈良教育大学・天理大学・奈良県立大学・帝塚山大学)	学習支援(中学校)
奈良教育大学 小崎誠二准教授	合同(地域・教職員)研修
奈良教育大学 ESD/SDGsセンター	「春日山原始林」飛鳥探求プログラム
奈良大学 土平博教授	郷土学習
自治連合会 公民館 社会福祉協議会 社会福祉団体	放課後子ども教室 土曜活動 防災活動 防災教育
放課後 NPO アフタースクール	みんなのアフタースクール(オンラインを活用したゲーム)
月ヶ瀬梅寿会連合会	梅寿会との交流会
地域趣味グループ	交流活動(和太鼓・押し花・お茶体験など)
アンキッキ協栄株式会社	富より団子学区ブランド産品
鼓阪子育てネットワーク	中学3年生の勉強会
ビーフォレストクラブ	バケツ稲作り(自然農法体験)
音声館	大型紙芝居
獣医師会・助産師会	いのちの授業
リクシル	家庭科出前授業
奈良・人と自然の会	農業体験
電子自治体アドバイザークラブ	クラブ活動(ICT、情報)、パソコン教室
平城ニュータウン楽しい理科実験研究会	クラブ活動(理科)
三共土地建物株式会社	木工教室
アンダンテ農園	ブルーベリー狩り

NO.9 地域で決める学校予算事業, NO.10 放課後子ども教室推進事業 (アンケート)

株式会社日本コスモトピア	学力向上・ICT 学習
バンビシヤス奈良	バスケットボール教室
商工会議所(青年部)	キャリア教育派遣講師
奈良県立国際高等学校	高校生・外国人講師との交流
スミセイアフタースクール	キャッチボール教室
西奈良ロータリークラブ	ダンスクラブ・合唱クリスマス発表会・凧作りなど協賛
イオンモール学研奈良登美ヶ丘店	クリスマスイベント開催

⑤ 活動する中で感じた課題について (複数回答)

地域からは「事業に対するPTA・保護者・学校・教職員の理解、協力が不十分」の回答が多く、学校園からは「学校・教職員の負担増」の回答が多く、地域と学校園で課題の意識に差異が見られた。しかし、事業に対する理解が不十分とする回答は、地域と学校園ともに多かった。また、自由記述からは、「コロナの影響等もあり、地域と学校との連携が不十分」や「事務負担が大きい」、「担い手不足」等の課題が伺えた。

項目	地域(回答者数56人)		学校(回答者数71人)	
	回答数	割合	回答数	割合
事業に対する学校・教職員の理解が不十分	20	36%	19	27%
コーディネーターやボランティアの方々との連絡調整による教職員の負担増	8	14%	32	45%
土・日・祝日等の活動や会議による教職員の負担増	6	11%	17	24%
学校における活動拠点(地域ルーム等)の設置など受け入れ体制が不十分	4	7%	14	20%
学校の期待する活動内容が明確になっていない	13	23%	3	4%
コーディネーターと学校との連携が不十分	6	11%	8	11%
コーディネーターの研修や養成が不十分	5	9%	0	0%
コーディネーターの負担が大きい	16	29%	12	17%
ボランティアの負担が大きい	4	7%	6	8%
教育委員会と学校や地域社会との連携が不十分	6	11%	9	13%
学校支援活動について学校と地域が話し合う機会が少ない	11	20%	7	10%
事業に対するPTAや保護者の理解・協力が不十分	27	48%	7	10%
事業に対する地域社会の理解・協力が不十分	8	14%	7	10%
課題は感じなかった	2	4%	17	24%
その他(自由記述)	15	27%	3	4%
	151		161	

回答数が上位3位までの項目

順位	地域		学校			
	項目	回答数	割合	項目	回答数	割合
1	事業に対するPTAや保護者の理解・協力が不十分	27	48%	コーディネーターやボランティアの方々との連絡調整による教職員の負担増	32	45%
2	事業に対する学校・教職員の理解が不十分	20	36%	事業に対する学校・教職員の理解が不十分	19	27%
3	コーディネーターの負担が大きい	16	29%	土・日・祝日等の活動や会議による教職員の負担増	17	24%
				課題は感じなかった	17	24%

【その他(自由記述)】※同じ内容の回答はまとめていただいております。

〈地域〉

- ・地域で子供たちを育てると言う意識がまだまだ醸成されていないと思います。コロナのこともあって、学校との連携が取れず、お互い知り合うところまで行っていないのが現状です。
- ・働き改革の影響先生方の協力が得にくくなった。特に管理職の協力が得にくい。
- ・学校がどのようなことを地域にしてほしいのか、明確じゃないので、コーディネーターとして、どのように動けばいいか、わからないことが多かった。
- ・活動をしようと思っても、学校側から「こちらから連絡するまで、待っていて下さい」と言われ、コロナ禍を理由に特に連絡ももらえず1年が終わりました。
- ・先生と話す機会を増やせたらと思うが、忙しいのではないかと、遠慮してしまう。
- ・仕事を休まなければならないので、休めるメンバーしか仕事ができない。会計さんの負担がとて多い気がする。紙や印鑑、アナログな事務作業が多すぎる。備品・消耗品等まで自己負担してくれているコーディネーターさんもいる。(本人は負担に感じていない)
- ・地域コーディネーターが増えず減少傾向にあるため、事業はおろか活動が維持できるかも分からない。少ないために一人一人の負担が大きくなっている。
- ・地域の力が強すぎてやりにくいことが多々あった。こちらの要望を聞かずに暴走する地域ボランティアも多く、昔から関わっているため誰も止められないことがある。
- ・コムスクと地域教育協議会の違いや事業内容を保護者に理解してもらうのが難しい。
- ・地域教育協議会について、どんな団体か、どんなことをしているか、保護者が全く知らないので、知ってもらえるようにしていきたい。
- ・コーディネーター研修や会議が、一定の時期にまとまって開催されるのは、参加しづらい。仕事を持っている人でも行きやすいように分散してもらえるとうれしい。
- ・次世代の育成、世代交代
- ・中々子供が小さかったりすると会議に行くこと自体とても負担でこの会議に行く為に子供を一人で家に待たせるなどと言う事態になっています。幼稚園のママなどからしたら平日午後からの集まりは難しく結局参加できていないのが現状です。
- ・コロナ禍の中での事業は不十分である。
- ・コーディネーターの人材が少なく、個々の負担が大きくなる。地域教育協議会の活動と、それ以外の地域連携の活動を合わせると、活動時間も長く、お仕事をされている方には難しい。来年度は、地域教育協議会の活動とそれ以外とを分担し、コーディネーターの負担が軽くなるように活動していく。
- ・ボランティアが集まらない。

〈学校〉

- ・コーディネーターの方との日程が合わず、連携がなかなか取れなかったことが反省です。
- ・今まで事業にかかわってくださった地域の方々が、高齢化に伴い辞されることが今年度続いている。代わりの方を探すだけでなく、これを機に事業の見直しも行ってきた。また、就労されている方が増え、コーディネーターをお願いできる人も少ない。高齢化や就労されていることの影響は大きいと実感しています。
- ・今年度より管理職が1名減ったため、会計書類に関わる業務をクラス担任も担うことになり、負担が増えてしまった。

⑥ 課題を解決するために必要なことについて (複数回答)

地域も学校園も、「教職員とコーディネーターの情報交換の充実」を課題解決に必要なこととする回答が多く、自由記述からも、地域と学校が連携して子どもたちを育てていくために、互いの意見を交換し、話し合いの場を設ける必要性が垣間見えた。その他上位を占める課題項目については、地域と学校園で意識や方向性に差異が見られる項目があった。

項目	地域(回答者数56人)		学校(回答者数71人)	
	回答数	割合	回答数	割合
教職員とCNの情報交換の充実	24	43%	23	32%
他校区のCNとの情報交換の充実	7	13%	3	4%
学校園の教育方針等についての意見交換の機会の充実	14	25%	5	7%
年間を見通した事業の計画	8	14%	13	18%
学校園における活動拠点(地域ルーム等)の設置などの受け入れ体制の充実	3	5%	16	23%
事業に関する広報(広報誌やWebページ)の充実	15	27%	6	8%
地域教育協議会等主催の教職員を対象とした報告会や研修会の充実	10	18%	8	11%
地域教育協議会等主催の保護者を対象とした報告会や研修会の充実	15	27%	3	4%
地域教育協議会等主催の地域住民を対象とした報告会や研修会の充実	10	18%	6	8%
教育委員会主催の研修会の充実	2	4%	3	4%
教育委員会からの情報発信の充実	8	14%	7	10%
その他(自由記述)	3	5%	9	13%
	119		102	

回答数が上位3位までの項目

順位	地域				学校			
	項目	回答数	割合	項目	回答数	割合		
1	教職員とCNの情報交換の充実	24	43%	教職員とCNの情報交換の充実	23	32%		
2	事業に関する広報(広報誌やWebページ)の充実	15	27%	学校園における活動拠点(地域ルーム等)の設置などの受け入れ体制の充実	16	23%		
	地域教育協議会等主催の保護者を対象とした報告会や研修会の充実	15	27%					
3	学校園の教育方針等についての意見交換の機会の充実	14	25%	年間を見通した事業の計画	13	18%		

【その他(自由記述)】

〈地域〉

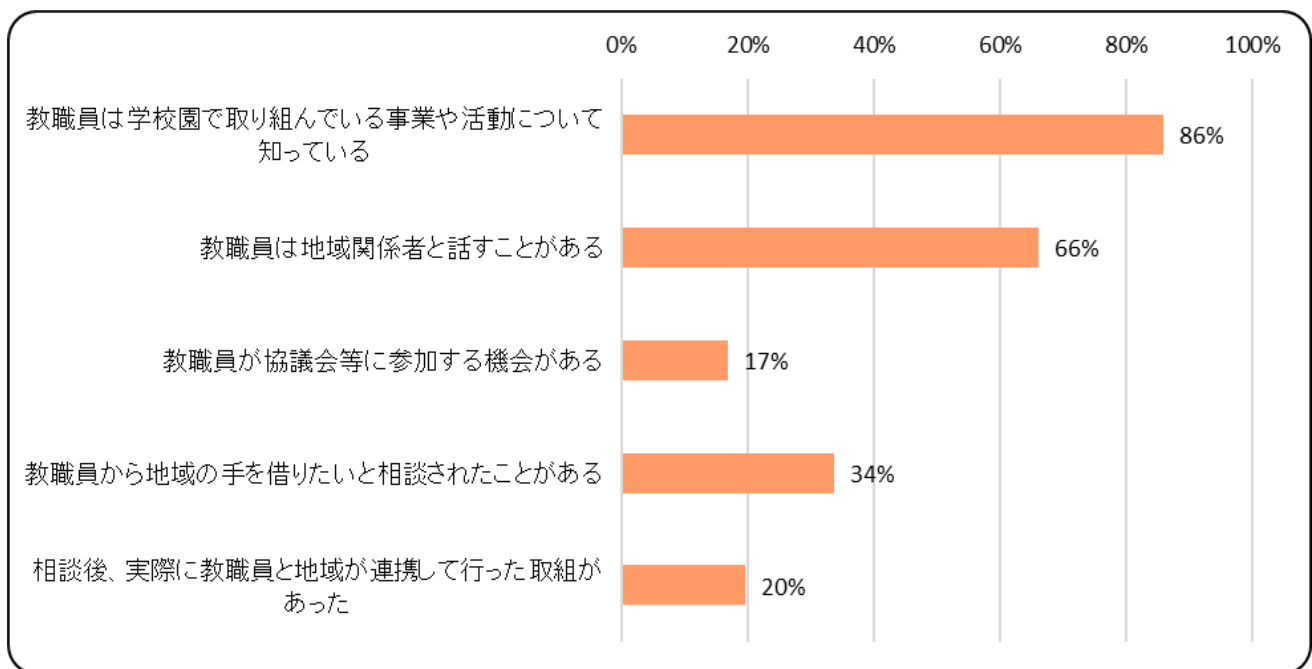
- ・コーディネーターとボランティアの確保。
- ・コーディネーターの時給の向上や地域の理解

〈学校〉

- ・報告等の簡素化
- ・学校組織の中で、意図的に打ち合わせ等に参加できる体制をつくることも必要かと思われる。
- ・年間を見通した事業の計画、あれもしたいこれもしたい・・・という地域の意見と、働き方改革を進める教職員との考えが一致しない。
- ・教職員とコーディネーターの情報交換の充実、1、2年で交代するのではなく、継続してコーディネーターをしていただける方を見つけること
- ・勤務時間内だけではカバーできない。試算や会計、現金の引き出しや取組のサポート等多岐にわたり学校の負担は非常に大きい。地域教育課を中心としての事業を展開し試案作成や調整などの実働も地域教育課でよいのではないのでしょうか。学校が参加する状態を考えたとしても、あくまでサポートであり、中心を担うのは違うと思います。
- ・教育委員会主催の教員への研修の充実(関係者以外の)
- ・生徒が地域のために何をしたいのかを地域の方と話し合う機会が必要。
- ・専属の人員。小学校は担当が担任兼務のため余力時間がないので教頭がになっていることが多い。さらに欠員補充等のため教頭も席を外すことが多々ある。このような現状の中で上記事項が円滑に進むとは考えにくい。地域との連携を活発にしていきたいが、現場はゆとりがない。書類の簡素化やデジタル化、公金を現金で扱わないなどの対策が十分ではない。(学校は来年度から Google ベースに変わっていきます。ウインドウズマシンも置かれますがそれぞれが別の OS を使うと現場は両方使うこととなります。学校教育課と連携を取ってもらってそのあたりもどうすればいいのかを検討願えればと思います。)
- ・年間を見通した事業の計画、協議会事務局の事務量削減、提出書類の簡素化

⑦管理職以外の教職員の事業の認知度について (学校園のみ) (複数回答)

「教職員は学校園で取り組んでいる事業や活動について知っている」という回答が 86%だったことから、学校園での地域教育推進事業の認知度が高いことが見受けられた。
 また、「相談後、実際に教職員と地域が連携して行った取組があった」と回答した学校園は 20%と、決して高くはなかったが、家庭科ボランティアや地域学習のゲストティーチャー招聘等、地域人材を活かした取組を行っている例もあった。



学校(回答者数71人)		
項目	回答数	割合
教職員は学校園で取り組んでいる事業や活動について知っている	61	86%
教職員は地域関係者と話すことがある	47	66%
教職員が協議会等に参加する機会がある	12	17%
教職員から地域の手を借りたいと相談されたことがある	24	34%
相談後、実際に教職員と地域が連携して行った取組があった	14	20%

【取組の例】

- ・防災食作り体験、福祉体験学習
- ・救急救命に関わる研修
- ・夏季休業中に地域と教職員の合同研修を実施した。
- ・飛鳥フェスティバル
- ・服のカプロジェクトへの参加の協力と、梱包のお手伝い
- ・マラソン大会交通安全立哨、水泳学習の安全確保
- ・地域の工務店から大工さんにきていただき、図工で使うのこぎりの使い方を教えてもらう(4年生)

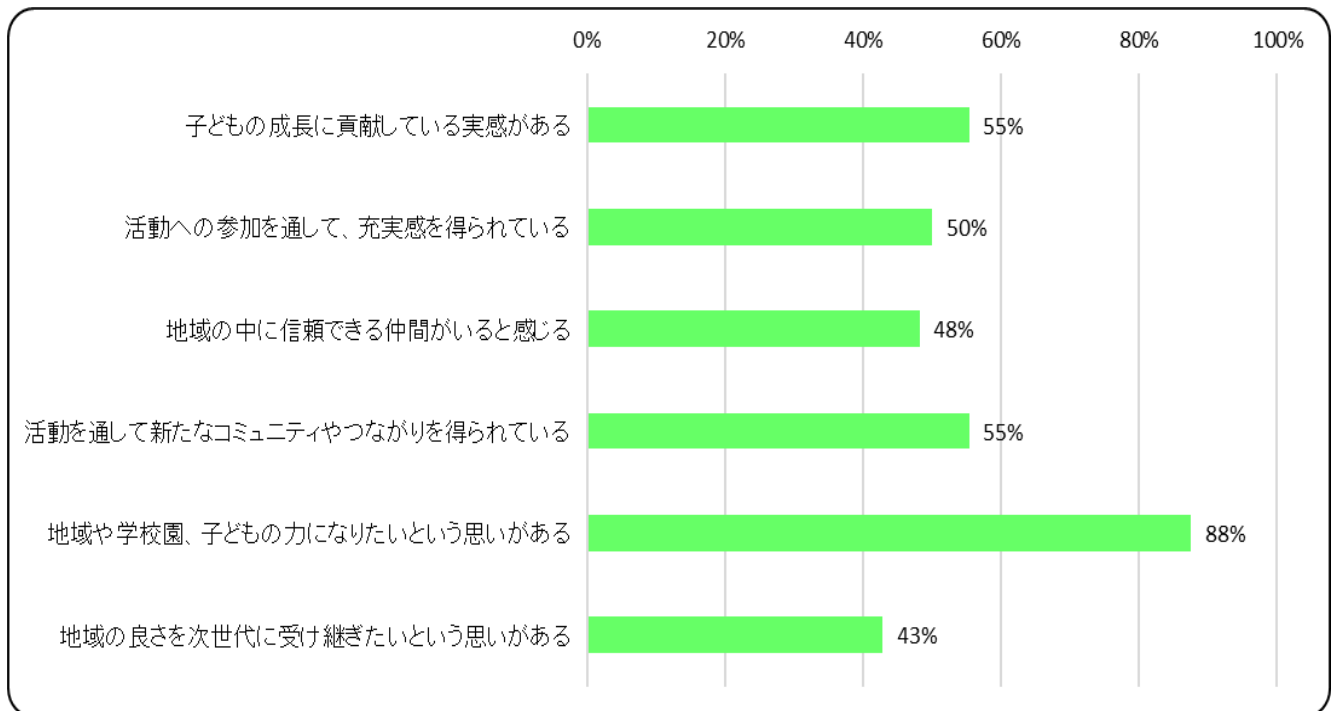
- ・伝統音楽と楽器の学習(5、6年生)
- ・図書館の整備
- ・地域の清掃活動と一緒に参加した。
- ・家庭科ボランティア 読み聞かせ
- ・地域の昔の様子や安全の取組について話していただいた。
- ・地域学習のゲストティーチャー招聘
- ・三者懇談時の部活動の見守り
- ・事業に対する教職員への周知を図るため、夏季休業中に地域合同研修を行った。

短時間で顔合わせ程度であったが、その後地域の方にボランティアの依頼をするなどつながりができた。

- ・地域の方と共に合同研修を行いました。
- ・漢字検定の準備、手配、片付けなど。

⑧ やりがいや満足度について (地域のみ) (複数回答)

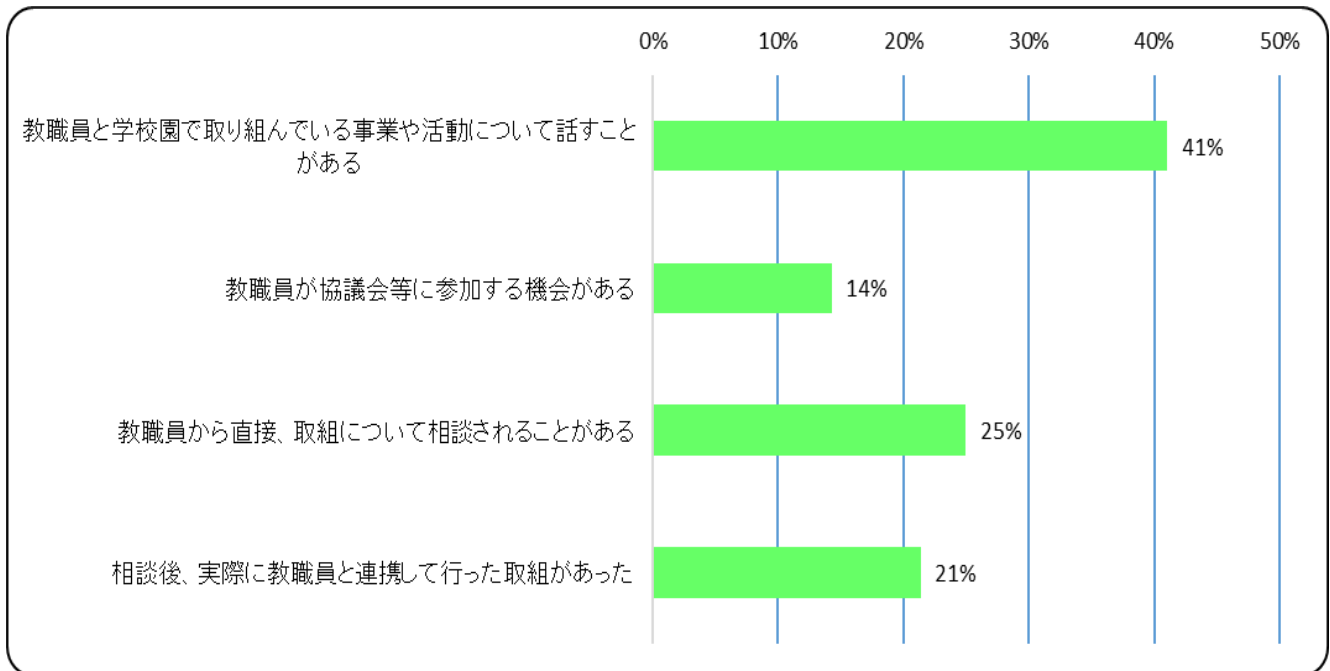
「地域や学校園、子どもの力になりたいという思いがある」の回答(88%)が多く、子どもの力になりたいという思いは強く感じられた。活動から得られる充実感や子どもへの貢献度は半数を占めた。



地域(回答者数56人)		
項目	回答数	割合
子どもの成長に貢献している実感がある	31	55%
活動への参加を通して、充実感を得られている	28	50%
地域の中に信頼できる仲間がいると感じる	27	48%
活動を通して新たなコミュニティやつながりを得られている	31	55%
地域や学校園、子どもの力になりたいという思いがある	49	88%
地域の良さを次世代に受け継ぎたいという思いがある	24	43%

⑨ 管理職以外の教職員との関わりについて (地域のみ) (複数回答)

地域関係者は、「教職員と学校園で取り組んでいる事業や活動について話すことがある」との回答が4割にとどまった。「教職員から直接、取組について相談されることがある」「相談後、実際に教職員と連携して行った取組があった」との回答の割合がほぼ同じことから、相談された取組は実行につながっていると見受けられる。また、取組の例からも、地域と学校園との情報共有の場を設け、具体的な内容で話し合うことの必要性が伺える。



地域(回答者数56人)		
項目	回答数	割合
教職員と学校園で取り組んでいる事業や活動について話すことがある	23	41%
教職員が協議会等に参加する機会がある	8	14%
教職員から直接、取組について相談されることがある	14	25%
相談後、実際に教職員と連携して行った取組があった	12	21%

【取組の例】

【授業支援・学校支援】

- ・家庭科の授業支援
- ・一年生の昔遊びの会を開催するにあたり、一年生の担任団と打ち合わせし、多くの地域の方に来ていただくことができました。その結果、子どもたち、先生方、地域の方々、参加したすべての方から喜びの声をいただきました。
- ・4年生の地域学習の講師を探してほしいとの依頼(結果的には5年生に地元の伝統工芸「赤膚焼」の学習と体験)
- ・2年生の食育(栽培学習)を地元にある「和創」と連携して SDGs の学習(給食の食べ残しを肥料にする)と栽培学習を行う。

- ・今年度の児童や学年の体制に合わせた学習支援
- ・4年生児童の福祉体験学習サポート
- ・1年生児童の昔遊び体験サポート
- ・学習支援 SAS に関しては研究主任、学年主任と密に連携している。
- ・一年生の先生から、子どもたちを公園で遊ばせたいと相談を受けた。保護者ボランティアを募り公園遊びに出かけた。
- ・イモ、イネの栽培について、事前打ち合わせ(学校から教育内容について何を望んでいるかが今一不明、今年度改善目標)

【図書関係】

- ・放課後図書開館
- ・支援学級の生徒との図書ボランティア活動(掲示作業)
- ・授業に沿った資料本を廊下に並べる並行読書はその都度相談され対応します。
- ・図書室の壁面飾りのボランティアから、ステップ教室の装飾のお手伝いをした。

【地域探検】

- ・地域探検について、地区の説明を聞かれた。それについてこの地域は誰に聞いた方が良いと教えた。家にある文献を持って行った。
- ・自分たちの住んでいる町探検を経験し、結果、質問、疑問に関して地域が回答する。

【環境整備】

- ・児童と行った新しい花壇の設計と設置 など
- ・地域との清掃活動

【キャリア教育】

- ・コロナ禍でのキャリア教育について、手段を共に考え教員と話し合いの上無理なくできる方法を模索し、実行できた。以前より行ってきた職場体験を、職場から学校に来ていただく形を取り、職場側の協力のもと教師も共に勉強することが出来て良かったと思います。
- ・中学校のキャリア教育は全面的に学年の教職員と協力し、共通理解をもって取り組み、統括会議にも参加して次年度の方針を共に検討している。

【その他】

- ・ビブリオバトルの実施に関しては国語科の教員と連携できた。
- ・ベルマークの取組は中学校の生活委員会担当教員と年間を通して連携している。
- ・中学校ボランティアルーム(地域ルーム)の様子が職員室からも良く見える位置にあるので、相談等がある先生は訪ねてこられます。

⑩ 今後特に必要と感じる地域教育課の支援について (複数回答)

「事業理解を深めるための研修実施」の支援を求める回答が多いことから、地域で決める学校予算事業、放課後子ども推進事業の本来の事業内容の理解を深めて行く必要がある。また、学校園は、会計処理の実務研修を求める回答が最も多かった。この事業に関わる会計処理を学校が担っている面が顕著に表れた。

項目	地域(回答者数56人)		学校(回答者数71人)	
	回答数	割合	回答数	割合
事業理解を深めるための研修の実施	20	36%	22	31%
会計処理等の実務研修の実施	5	9%	26	37%
事業説明会の実施および充実	7	13%	10	14%
他校区のCNとの情報交換の場の設定	9	16%	8	11%
SNSやホームページによる広報の強化	16	29%	8	11%
助成金等の情報	11	20%	6	8%
その他(自由記述)	7	13%	12	17%
	75		92	

回答数が上位3位までの項目

順位	地域			学校		
	項目	回答数	割合	項目	回答数	割合
1	事業理解を深めるための研修の実施	20	36%	会計処理等の実務研修の実施	26	37%
2	SNSやホームページによる広報の強化	16	29%	事業理解を深めるための研修の実施	22	31%
3	助成金等の情報	11	20%	事業説明会の実施および充実	10	14%

【その他(自由記述)】

【事務軽減】

- ・事務作業の軽減。(事務作業を減らして、肝心の子供たちのためにできることを増やしたい)
- ・備品を買うのをネット通販やクレジットカードで買えるようにしてほしい。現在は買い物のガソリン代・交通費・時給がなく、現金立て替えで買い物をしています。買い間違いもなくなるし、比較検討しやすく、配達してくれると助かります。
- ・会計処理・事務処理の簡素化
- ・事務処理の補助
- ・書類作成の簡略化。予算流用について柔軟な運用。報償費のみ、課の審査を受けて制限なしで流用可など。
- ・協議会事務簡素化に向けての提言等

【環境整備】

- ・パソコン・スマホ・Wi-Fi等の貸し出し。
- ・専属の人の配置
- ・コーディネーターと学校との連携について

【広報】

- ・広報の支援。
- ・学校に子どものいない家庭、住民と繋がるためにも学校以外への広報をしていただきたい。

【研修】

- ・研修のオンライン化。
- ・教職員に、地域コーディネーターについて、理解してほしい。
- ・学校運営協議会(コミュニティ・スクール)に対する具体的な研修(「こんないいことにつながる」ではなく、実際に何をすべきなのかという所の理解が進んでいない)
- ・コーディネーターの意識が低く、研修に対する意欲のなさを感じる

【人材育成】

- ・地域への事業説明や広報を通して新たな地域人材の発掘をお願いしたいです。

【その他】

- ・もう少し各学校の状況についてしっかり知ってほしい。
- ・地域のおもいが強すぎ、学校のニーズに合致しない場合もある。学校のニーズに応じた支援促進を教育委員会から地域へすすめてほしい。
- ・学校が多くを担う状態からの脱却方法
- ・教員の働き方改善についての取組

⑪ 今後取り組みたい活動やアイデア等について (自由記述)

【体験学習】

- ・他校との交流および体験学習の充実
 - ・収穫した産物の販売
 - ・子ども達が興味をもって、持続できるような遊びの講習
 - ・他団体と学校をつなげるお手伝い
 - ・地域のボランティアさんを巻き込んで、盛り上げていきたいです。
 - ・他団体とは、音楽芸術活動を子どもたちの教育の場に体験として取り組む。
 - ・プロの演奏家たちで、海外在住の友人が活動中なのですが国内にも演奏家がいるので、連携をとり、本場ヨーロッパの音楽を子どもたちへ体験してもらう学びの機会となれば。
- 感染対策の規制が緩和される見込みなので、デイキャンプやあるいは校庭を使って非日常の体験を提供し、子どもたちが自主性を持って活動できるお手伝いを地域の方たちと共に行う。
- ・ポッチャ大会の子ども審判導入に向けて検討したい
 - ・なわとび大会(なわとびリレー)

【図書整備】

- ・来年度から図書整備事業が始まります。

【郷土学習】

- ・世界遺産や理科、英語、福祉の学習等、教職員の負担なく地域の方から本物に触れる学びを新規開拓していきたい。
 - ・富雄丸山古墳を学ぶ史跡散策を企画したい。
 - ・地域、学校、子どもたちが綺麗なサークルが描ける還元型事業を作りたいと常々思う。
- 例えば、当学校区協議会では、歴史ウォーク という企画がある。長年開催しているが、子供達の故郷への想いを深

め、コミュニケーションを高めるためにも、地域ガイドとして活躍できればいいなと思う。それには、学校と連携して、学習時間の中で地域の歴史や史跡を調べるカリキュラムを取り入れる必要もあるだろうし、地域連携の時間を作ってもらう必要もある。また、公民館とコラボして、公民館主催のガイド養成講座(仮)を受講したり、学校に招くことも取り入れれば、地域還元事業になると考える。

【その他】

- ・コロナが収束すれば、地域と教員が集まっての熟議の場を持ちたい。
- ・教頭からコーディネーターへの実務移行
- ・「飛鳥探求プログラム」の学習を軌道にのせる。
- ・生徒が、自分の地域を自分たちでよくしたいと思う、生徒主体となる取組
- ・まずは今行っている活動を「地域とのふれあい」をキーワードに再考してみたい。
- ・アフターコロナを見越した取組
- ・まだまだ何もできていないのが現状です。まず、お互いに知り合い、関わり合い、共通の課題を持つところから始めないと何も進まないと思います。お互いに知り合うためにどのような工夫があるのか、これから考えたいと思います。ただ、挫折からの立ち直りができない子供たちが多く、奈良県では、不登校生や高校の中途退学者がとて多いのが現状です。これは、伏見地域に限ったことではないと思います。どのようにしてたくましい子供を育てていくのか、共有していく必要があると思います。
- ・アイデアはたくさんあっても、時間的に手一杯の状態。
- ・単発開催ではなく、月 1 回でも継続して取り組める事業ができたと思う。決められたことではなく、子どもが自由に遊んだり作り上げたりできる場を提供したい。が、場所がない。
- ・小学校・中学校を卒業した高校生や大学生が、地域に戻って気軽に活動できるような体制づくりができたらいいなと思う。お手伝いしたいと思っている卒業生がいるのに、受け入れ態勢ができていなかったらもったいない。

⑫ その他事業に関するご意見

【人材確保】

- ・コーディネーターが機能していない学校と機能している学校との格差が大きすぎる。本校は機能していないので、全て教頭が担っている。なんとかしようと今年度動いていったが、やはり自分の興味のある教室や、自分の子供が参加する教室にしかコーディネーターは出席しないし、実務もやらない。本校の放課後子ども教室は教頭が運営していることになってしまっていて、本来の形となっていない。クレームも教頭にくる。
- ・地域のコーディネーターやボランティアが活動を主導し、学校はそのサポートに回るような学校や校区もあると聞きますが、本校区は前述の通り、すべてを学校が主導しなければならない地域性がある。この事業をさらに広げても結局学校・教員の負担増に結びついてしまう。地域予算事業がすべての学校に「働き方改革」をもたらすものではないということを理解していただきたい。

【負担軽減】

- ・教頭の負担が多すぎます。どうか改善してください。お願いします。
- ・もう少し事業をスリム化するか、学校の職員がいて成り立つ事業ではなく学校のサポートを受けなくても一定の動きができる事業体制を組んでほしい。
- ・提出書類について、データのみにしてほしいです。
- ・予算の執行方法がもう少し緩やかであると、いろいろな面で取り組みやすい。

【地域と学校との連携】

- ・学校と地域が具体的に問題を共有することが必要だと思います。

- ・地域本部を立ち上げ、学校に対する支援を行っていますが、この取組が学校にとっても地域にとっても価値のあるものになっているのかどうか検証する必要があると思います。
- ・学校支援するために、地域としてどうあるべきか、再度考えてみたいと思います
- ・放課後教室について学校と連携は取れている。休日の事業に教職員の参加も得られている。
- ・それ以外にも何かあれば教職員の方からも関りがあるが、もっと学校に対して協力していきたい。
- ・コロナ禍で学校への出入りが縮小されたことは、保護者や地域の学校理解の機会を減らし、隔たりを生んでいます。感染防止対策は必要ですが、受け入れる学校側が慎重になり過ぎないことを願います。また、先生方と地域住民が協働するには、打ち合わせ、連絡調整等は必須です。それを「教職員の負担増」と思われるのであれば、連携は進められません。児童を真ん中に、どのように育んでいくのかを考えて、同じ方向を向いて学校、先生方と共に歩んでいけたらと思います。
- ・子どもたちの興味は多岐にわたりますが、それに費やしてあげるだけの、時間と費用が足りてないと感じます。

【その他】

- ・奈良市全体の事業に対する理解度を危惧しています。特に一体的推進と言われる部分に関しては教育委員会が方向性を示し、正しい理解を促していくべきだと思います。あまりにお粗末な状況を耳にすることがあります。
- ・色々な研修や交流会があれば、できるだけ参加したい。
- ・コムスク、少年指導協議会との連携
- ・地域支援事業は、子ども達が「ひと・もの・こと」と出会い繋がりをもつことができる事業であるため、今後も大切にしていきたい。
- ・地域の方々の協力を得て、地域・保護者・園が連携を図りながら、子ども達が様々な体験や経験ができることは、みんなが自分たちのことを見ているという安心感や喜びを感じることができるとともに、子どもの育ちにつながっていると思います。
- ・様々な事業を通して、地域の方と交流することで、地域に関心を持つことができている。

令和4年度協働事業評価表

事業名:	旧鍋屋交番きたまち案内所の運営管理
貴団体名:	鍋屋連絡所の保存・活用と“奈良きたまち”のまちづくりを考える会(なべかつ)

②下記の意見をご記入ください。

協働することで見えた課題や協働相手である行政に対して求めること	<p>例年のことで、これまで不満ながら適当に対応してきましたが、「協働」への市の全体的な対応が変わっていかないので今年度はそもそもの「協働」の「評価」について下記の3点意見を出すことにさせていただきます。ご検討ください。なお、窓口となっていたいる奈良町にぎわい課の方々とは非常にいい関係で「協働」させていただいていると思っております。</p> <p>○「対等性」について 特にこだわっている点は、事業実施について市が前提としている「対等性」を評価すべしとして「事業評価表」の記載を求めていることです。 例えば、なべかつでの案内所の管理運営は、市が方針を提示するのではなく例年「なべかつが案内所の管理・運営の事業方針を市に提示」することになっている。これは非常に優れた方式で、私たちの方針を市が追認する形を取っているから、なべかつ会員が公益性に配慮しつつ主体的かつ自由に管理運営できる。この方式だからこそ市に対する責務や義務感でやるのではなく、それぞれの事情の中で適度に楽しみながら無理をしない範囲で充実感や満足感をもちながら取り組める。 また、他の例では、なべかつの方式とは逆に市が提示した事業や仕組みに市民が申し込むことで協働している例もある。この場合も申し込まれた市民の方々は単に義務感でやっておられるのではなくおそらく充実感を得、楽しみながらやっておられると思われる。</p> <p>この二つの例での市との「対等性」をどう見るのか。事業評価が前提としている「対等性」は組織同士の「対等性」を問うており「お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか」を問うているが、評価する事業の実施について「対等性」を評価するのであればどんなことをどのように進めるかを対等に上下関係なくパートナーとして議論できているかどうか(あるいは進めているか)を問うているはずである。しかし、先の二つの例のように取り組み内容や方法は例えばなべかつが市に提示して市が追認しているようにそもそも「対等」に議論又は実施しているわけではない。結局のところ、単に組織や人を尊重しているかどうか(＝「お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか」)を問うているのだけではないか。もしそうであれば「対等か」と問うのではなく「尊重しているか」と問えばすむ。</p> <p>市と市民が実施している協働事業の内容や事業の進め方・方法及びそこに向けた議論や実施は、相互の関係が「対等」でない場合が多数ある。むしろ「対等」でない場合の方が多い。多様な市民の協働を市民の意欲や遣り甲斐に依拠して豊かにかつ多面的な分野で多様に発展するためには「対等」かどうかは重要とは言えない。「対等」でないことをいいとか悪いとか評価する姿勢自体が、下記の理由で逆に多様であるはずの協働の発展を阻害しているのではないか。</p> <p>市と市民との協働は多様な形態が考えられるが、その多様性を尊重すればするほど、協働するそれぞれの市民が希望する内容や充実感が得られる可能性が広がり、結果として市と市民の多様な協働が広がる。かつて全国各地で起こり始めた市民活動について、特に初期の段階でしばしば喧伝された「市と市民は対等であるべき」との理念が重要だからと言って、その事にとらわれて実施する事業についての「対等性」を大前提として市民協働を評価するとの立場に拘れば拘るほど、結果として協働の多様性が阻害されるのではないか。むしろ評価すべきは、協働する市民側の主体的な意欲とか遣り甲斐であって、その視点が正面から捉えられれば捉えられるほど協働の幅が広がり協働の内容が多様で豊かになる。</p> <p>要するに、どちらかの「上下関係」は事業の内容や位置づけとの関係で整理されるはずで、市民側が提起した事業を市が追認する形式もあれば市が提起し市民がその提起の範囲内で自主性・主体性を発揮しながら協働する場合もある。また、両者が最初から協働して提起し相互の関係についても確認しながら進める場合もある。いずれにしても事業が始まる最初の段階でそれぞれの立場や事業内容、進め方といった基本的な方向性や相互の関係といった「対等性」に関する基本的な整理は終わっているはずで、事業開始段階で終わっていることに対して毎年毎年「お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか」と「評価」すること自体意味がない。市が何十年も前の高圧的だった過去の反省に拘るのなら「対等性」を問うのではなく、どのような協働事業であっても市は高圧的ではなく「市民活動や活動する市民を尊重する」立場で関わったかどうかを問えばいい。(一方、市民や市民団体が市に対して種々の要望をすることは十分に保障されるべきで、市民側には市を他者のように捉えて「市民は市を尊重したか」という「評価」はない。これをすれば市民によって構成される自治(及び自治体)そのものを否定する本末転倒の議論になる。)</p> <p>以上のことから「事業評価」に記載されている(上下関係等の)「対等性」を評価することが「協働」を適切に評価することはとは思えない。いつまでも、同じような「事業評価」を、しかも、市から先に「事業評価」を提示するのではなく各団体側に「事業評価」を先に依頼するような「対等」ではない対応をすることは、市、団体側相互に無駄な業務を増やしている面も含めそれぞれの市民の希望に適合した多様で豊かな市民協働の発展を高めているとは思えず、逆に阻害していることになる。</p> <p>要は、事業開始の段階で整理できるはずの「対等性」について、その確認がどこでされているのか不明なまま毎年「対等性」が問われ、記述した「事業評価表」が協働の発展に向けてどのように活用されているのか説明もなく「事業評価表」の記述依頼だけが各団体に送付されることの繰り返しではなく、「事業評価」のあり方そのものを再度検討いただきながら、取り組む一人一人の意欲が尊重され市民協働が多様で豊かに発展するような議論ができることを期待しています。</p> <p>○「評価表」が各取組の多様性に依拠しない固定的・画一的であること 多様であるはずの協働を、多様性に依拠しない一律の様式で固定的・画一的に評価している。しかも、数値では目標を設定しないことにしているに我々に対しても一律の「目標値」を設定している。画一的に一律評価したいという行政側の都合で「評価表」を決めているだけではないか。</p> <p>○何の相談や協議もなく、当初一方的に「目的」や「目標値」が設定され、しかも我々とは違う「目標」が設定されていた(担当者のやっつけ仕事になっている)</p>
---------------------------------	---

令和4年度 アダプトプログラムに関するアンケートまとめ

（回答数 50）

●活動に参加していてよかったことを選んでください。（複数選択可）

地域がきれいになった	44
地域の親睦が深まった	26
運動・健康に役立っている	24
自然に触れる機会が増えた	14
地域への愛着心が深まった	20
特に無し	1
その他	5
無回答	0

その他の意見

- ・活動に対して無関心な人が多い。
- ・高齢者ばかりで特に関心の評価を受ける機会はない。
- ・自分達のごみ拾いしている場所が綺麗になり嬉しい。
- ・子ども達に伝えたい事を行動で示すことができた。
- ・子ども達が楽しく遊んでくれて、また、乳児連れの若いお母さんたちが利用してくれているのを見ると活動をしてよかったと思える。
- ・きれいになって達成感も得られる。

●活動をしていて困っていることを選んでください。（複数選択可）

メンバーの高齢化	35
担い手不足	21
刈払機など専門的作業ができるメンバーの不足	4
団体の運営が難しい	1
近隣住民とのトラブル	1
活動予算の不足	8
特に無し	5
その他	6
無回答	1

その他の意見

- ・通行車両からの不法投棄が多い。
- ・分別に困る事が多い。
- ・現在16名なので全員の家庭の事情、仕事の事情で活動に不参加になると他の会員の負担が大きくなる。
- ・活動を嫌がる近隣住民がいる。花、球根を持ち帰ったり掘り起こしたりされる。
- ・メンバーの高齢化

●市からの支援に満足していますか。

（満足以外を選んだ方は次の質問にもお答えください。）

満足	27
どちらでもない	20
不満	3
無回答	0

●現在の支援以外に、市にどのような支援策を望みますか。

- ・水道を引いてほしい。
- ・区域外が汚かったため、1週間ほど除草清掃を実施した。該当場所は年1回の草刈のみで枯葉剤散布を市に要望するも反応がなかった。
- ・「市民だより」に事業の内容を広報的に記載してはどうか。
- ・代表者会議を開催してはどうか。
- ・花壇に力を入れてます。以前のように球根や花の種の配布をしてほしい。
- ・初夏から秋にかけて雑草の量が多いため、市の除草活動を増やして欲しい。公園も同じ。
- ・「みんな（各自）がきれいな町にして子供達を育てよう」的なスローガンを目立つ所にデザイン的にも材質もそこそこなものを掲げてほしい。
- ・年に一回程度活動している自治会等に現状のヒアリングを実施していただければと思う。聞きたい事もあるため。（作業でやっていいことややらない方がいいこと等）
- ・高齢化に伴う作業負担を少なくするためにプロワーカーの貸出などあればいいと思う。
- ・掃除用具入れ（納屋）、作業中のカラーコーンが必要。納屋は緑地部に建ててほしい。
- ・市民への広報、市民だよりなどに行政からの呼びかけ（自治会長への直接の呼びかけがよい）
- ・清掃ボランティアに関する情報の収集、提供を充実する。
- ・地域自治協議会等のような組織を立ち上げ、美化活動団体を繋ぐネットワークの仕組みを構築する。
- ・団体相互の交流の場を設ける。
- ・奈良市アダプトプログラム専用のごみ袋の配布。福岡市は環境美化袋としてボランティア登録者には配布されておりボランティアが登録した場所に出せば回収してくれます。
- ・喫煙禁止区域での喫煙者取り締まり。
- ・高齢化が進んでいるので提出書類等を少なくして欲しい。
- ・草刈機を酷使するので約一年で壊れます。報奨金の増額をお願いします。
- ・鹿害防止策について県市当局の具体策が一切みられなかった。
- ・回収袋の置き場、指定地の他、町内ゴミ置場でも回収されているので助かります。
- ・道路の除草・清掃は危険なので、はぐくみセンター南側道路の菩提川公園の所のロードスライダーを運行ルートに入れて欲しい
- ・業者が実施する作業日を事前に通知して欲しい。

●当課で発行している情報誌「りろば」を知っていますか？

毎号読んでいる	32
知っているが読んだことはない	9
知らない	6

●りろばに取り上げて欲しい内容等ございましたら、ご自由にご記入ください。

- ・表彰された方（団体）、その地域の写真、どんな風に活動されてるかなど
- ・環境について取り組まれている活動やお店の紹介

●その他、ご意見・ご要望等がございましたらご記入ください。

- ・活動範囲は60年ほど前の団地であり歩道も最も古い形式のものであり、雑草除去作業は最も手がかかる。それなのに団地と市との現状把握は関心不足に思い残念。
- ・もう少し現場の状況を把握して補修等をスムーズに実施してほしい。
- ・45Lゴミ袋の品切れが無いようお願いしたい。
- ・報奨金制度を根本的に見直してはどうか。団体規模対応、支給方法の簡潔化等。
- ・地域ごとに防災訓練はあるが、その時にゴミ関係のブースを加えとか、高齢者のサロンに話題を提供するとか連合自治会に働きかけるのが良いのではないか。
- ・年に一回でもよいので話し合いの場を持ってもらいたい。
- ・子どもたちが参加しやすい様々な仕掛けがあればいいと思う。スポーツクラブや学習塾などへの呼びかけ、祭りなどでのゴミ拾いなど。
- ・より若い年代の人達に継続して参加してもらいたいが、現実には時間のあるシニアが多く、5年後10年後が見通せないのが悩み。

●市との協働についての自己評価

回答数： 45 団体

番号	評価項目	合計 点数	平均点数
1	市に対して気兼ねなく相談や提案をしながら活動に取り組むことができましたか。	163	3.6222
2	活動場所の美化を維持するために、自主的に活動できましたか。	197	4.3778
3	事業の目的や趣旨を十分理解した上で申請することができましたか。	181	4.0222
4	お互いの役割（市の支援や美化活動の内容）を理解して、活動することができましたか。	168	3.7333
5	活動について、ホームページや会報等を使って情報を発信できましたか。 （例：周りの人たちに、りろばを共有する等）	137	3.0444
6	自分たちのやり方にこだわり過ぎず、効果的な方法があれば柔軟に受け入れ、組織をより良くしていく姿勢をもって取り組むことができましたか。	158	3.5111
7	年間を通して、活動場所の美化を推進できましたか。	196	4.3556

協働の原則に基づいた評価項目		点数	質問番号
対等性	互いに対等の関係を保つことができたか。	4	1
相互理解	互いの立場や特性を相互に理解し尊重したうえで、それぞれの役割を明確にすることができたか。	4	1
自主性尊重	協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができたか。	4	1
自立化	互いに依存することなく、協働相手の自立化を進められたか。	4	2
目的共有	協働相手と目的を共有することができたか。	4	3
相互補完	互いの特性を踏まえつつ、互いに補い合いながら役割分担することができたか。	4	4
公開	協働事業のプロセスや結果等の情報を公開し、市民に対する説明責任を果たすことができたか。	3	5
相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができたか。	4	6
期限設定	馴れ合いを防ぐため達成目標や事業期間など協働関係を解消する条件を決め、緊張感を保つことができたか。	4	7
評価点			

令和4年度 グリーンサポートに関するアンケートまとめ

（回答数 60）

●活動に参加してよかったことを選んでください。（複数選択可）

地域がきれいになった	53
地域の親睦が深まった	43
運動・健康に役立っている	21
自然に触れる機会が増えた	11
地域への愛着心が深まった	26
特に無し	1
その他	6
無回答	1

その他の意見

- ・公園利用が進んでいる（保育園から来ている）
- ・子ども達が楽しく遊んでくれて、また乳幼児連れの若いお母さんたちが利用してくれているのを見るとやっていてよかったと思える。
- ・きれいになって達成感も得られる。
- ・子どもたちがよく遊びに来てくれるようになった。
- ・親子連れの公園使用頻度が高くなった。
- ・自治会内外の多くの方から「きれいな公園だ」と評価され、喜んで利用してくれている。
- ・きれいな公園で朝ラジオ体操をしている。

●活動をしていて困っていることを選んでください。（複数選択可）

メンバーの高齢化	48
担い手不足	28
刈払機など専門的作業ができるメンバーの不足	20
団体の運営が難しい	4
近隣住民とのトラブル	1
活動予算の不足	9
特に無し	6
その他	5
無回答	1

その他の意見

- ・剪定が必要な樹木があり外部へ作業委託することにより高額な出費になる。
- ・他の地域からくる人の利用マナーが悪い。
- ・公園内に犬を引き入れ、「条例等で禁止されていないから」とやめようとししない。毛繕いの後の毛を放置したままである。
- ・コロナの為メンバーと慰安、親睦の機会が持てていない。
- ・近年気温が上昇している為6～9月の気温が高い為活動がしにくい。

●市からの支援に満足していますか。

満足	35
どちらでもない	19
不満	5
無回答	0

●現在の支援以外に、市にどのような支援策を望みますか。

- ・市の除草時期のホームページ公表
- ・公園の水たまりで困っている。現状を時々見に来てほしい。
- ・若い男性の担い手がないため市民日より等で清掃ボランティア活動募集記事などをとりあげてほしい。
- ・奈良市のHPにグリーンサポート活動で生じた要望、依頼を申請できるフォームを作成してほしい。現場の写真等添付することができ、効率よく内容を伝えることができるのではないと思う。
- ・公園全体の土が雑草の根でおおわれているので土を耕すか土を入れ替えてほしい。
- ・ポイ捨てゴミが多く、看板の効果は限界であるため、貸出（期間限定）監視カメラ制度を希望する。
- ・使用頻度の少ないチェーンソーなどの貸出。
- ・芝刈り機、チェーンソー、剪定用バリカンなどのメンテナンスについての講習会
- ・物置が老朽化しているため、新しいものを購入してほしい。
- ・公園緑地課に報告、相談したが対応が不十分だった。
- ・ベンチの数を増やしてほしい。
- ・日陰の場所を作ってほしい。
- ・花壇に植える花を支給してほしい。
- ・報償費が少ないので奈良市ポイントにも加算してほしい。
- ・階段等の老朽化対策をお願いしたい。
- ・公園を利用した活動や住民交流行事などの情報提供をしてほしい。
- ・作業現場を確認し、従事者から直接意見を吸い上げ、適切な評価とアドバイスがほしい。
(例：樹木の病害虫への指導など)
- ・一人自宅の意見にとらわれず支援していただきたい。
- ・公園緑地課に連絡するとすぐ対応していただき助かっている。公園が古いので設備（石階段、排水管等）更新修理を計画して欲しい。
- ・活動費の方が年一回では少なく個人出費でまかなっている。
- ・園芸その他、管理に関して専門家の助言、指導が欲しい。疑問が出たその都度聞いてもらえるとうれしい。
- ・害虫駆除

●当課で発行している情報誌「りろば」を知っていますか？

毎号読んでいます	34
知っているが読んだことはない	9
知らない	7

●りろばに取り上げて欲しい内容等ございましたら、ご自由にご記入ください。

- ・ボランティア活動の成功例。
- ・グリーンサポート活動で美化整備された公園の紹介。
- ・現状の活動できる地域内の市の公園、道路管理等のから情報もりろばに掲載して欲しい。
- ・ページ数を増やして欲しい。
- ・活動しているグループ間のQ&Aコーナーが欲しい。
- ・他団体はどのようにして会員を増やしているか。

●その他、ご意見・ご要望等がございましたらご記入ください。

- ・公園を見に来てほしい。
- ・当自治会ではグリーンサポート活動は非常によく機能しており、公園美化整備に大きく寄与している。また、公園美化整備は防犯にも重要な役割を果たしている。
- ・より若い年代の人達に継続して参加してもらいたいが、現実には時間のあるシニアが多く、5年後10年後が見通せないのが悩み。
- ・窓口の一元化（公園緑地課、地域づくり推進課）
- ・報奨金を増やしてほしい。
- ・ごみ袋の回収について、活動後に市へ連絡しなくても決まった日に回収してほしい。
- ・団体で広報誌を発行し、自治会長にも我々の活動を理解してもらっている。
- ・公園内に犬を入れることを規制して欲しい。
- ・毎年もらっている道具代を積み立てているが、草刈機等、購入時には市からも援助をお願いしたい。
- ・グリーンサポートの制度自体を知らない自治会等がかなり有るので、奈良市自治連合会の定例会等で説明されたら参加される団体も増加すると思います。
- ・高齢化でも仕事をしている人が多いためボランティア活動してもらえない人が少ない。

●市との協働についての自己評価

回答数： 58 団体

番号	評価項目	合計点数	平均点数
1	市に対して気兼ねなく相談や提案をしながら活動に取り組むことができましたか。	213	3.6724
2	活動場所の美化を維持するために、自主的に活動できましたか。	237	4.0862
3	事業の目的や趣旨を十分理解した上で申請することができましたか。	282	4.8621
4	お互いの役割（市の支援や美化活動の内容）を理解して、活動することができましたか。	234	4.0345
5	活動について、ホームページや会報等を使って情報を発信できましたか。 （例：周りの人たちに、りろぱを共有する等）	189	3.2586
6	自分たちのやり方にこだわり過ぎず、効果的な方法があれば柔軟に受け入れ、組織をより良くしていく姿勢をもって取り組むことができましたか。	211	3.6379
7	年間を通して、活動場所の美化を推進できましたか。	252	4.3448

協働の原則に基づいた評価項目		点数	質問番号
対等性	互いに対等の関係を保つことができたか。	4	1
相互理解	互いの立場や特性を相互に理解し尊重したうえで、それぞれの役割を明確にすることができたか。	4	1
自主性尊重	協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができたか。	4	1
自立化	互いに依存することなく、協働相手の自立化を進められたか。	4	2
目的共有	協働相手と目的を共有することができたか。	5	3
相互補完	互いの特性を踏まえつつ、互いに補い合いながら役割分担することができたか。	4	4
公開	協働事業のプロセスや結果等の情報を公開し、市民に対する説明責任を果たすことができたか。	3	5
相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができたか。	4	6
期限設定	馴れ合いを防ぐため達成目標や事業期間など協働関係を解消する条件を決め、緊張感を保つことができたか。	4	7
評価点			